東教育財団だより

発行所
公益財団法人
東教育財団
大阪市中央区南本町
２丁目２番11号
堺筋本町西尾ビル6階
電話06（6262）7363
発行責任者　北井保行

令和四年度に助成した事業を紹介します

東教育財団では、大阪市中央区内の学校教育並びに社会教育の育成と地域文化の振興に寄与するため、学校教育活動及び社会教育団体等が行う社会教育活動・生涯学習活動、地域文化・まちづくり活動に助成を行っています。

令和四年度も、新型コロナウイルス感染予防措置等により、助成対象事業を中止又は変更する団体があり、その結果、助成件数は、助成決定件数より三件減の七三件、助成金の総額は、一、四六〇万二千円となりました。

助成金の種別ごとの助成件数・金額、助成対象事業の具体例は次のとおりです。

学校教育事業助成

中央区内の幼稚園、小学校及び中学校に対して、二〇件、総額六三二万二千円の助成を行いました。

「自然体験を通して豊かな心を育む活動」

（サツマイモの苗を植えている様子）

玉造幼稚園では、収穫する喜びや季節の移り変わり、命の尊さ等を感じてもらうため、いろいろな野菜や季節の花の栽培、ウサギなど園で飼育している小動物の世話等を園児に体験してもらう取組を行いました。

（助成額一三万円）

「創立一五〇周年記念事業」

（創立一五〇周年記念誌）

高津小学校では、創立一五〇周年を記念して、小学校の歴史・現況や「児童の夢」を掲載した記念誌を作成し、関係者に配付しました。

（助成額四五万円）

「吹奏楽部活動および地域交流を目的とした演奏会」

（「区民まつり」での演奏風景）

東中学校吹奏楽部では、コロナ禍で活動は制限されたものの、コンクールへの出場、学校行事（文化発表会、卒業式など）や地域行事（中央区民まつりなど）での演奏活動を行いました。また、3月末には地域でお世話になったすべての方々を招待して定期演奏会「サンクスコンサート」を開催しました。（助成額三四万五千円）

社会教育事業助成

社会教育団体に対して、一〇件、総額二九五万円の助成を行いました。

「区民の体力づくりとスポーツレクリエーションの振興事業」

中央区スポーツ推進委員協議会では、区民の体力づくりとスポーツレクリエーションの振興に寄与するため、「区長杯ソフトバレーボール大会」、「中央区民まつり」での「ミニトランポリン体験コーナー」・「ボッチャ体験コーナー」、「中央区ファミリージョギング大会」、「中央区民スポーツカーニバル」等を開催しました。

（助成額二五万円）

「高齢者の生きがいと健康づくり推進事業」

中央区老人クラブ連合会では、会員の体力向上や相互の親睦を図るとともに、フレイル予防や高齢者の孤独・閉じこもりの防止につなげるため、「室内ペタンク大会」、「グラウンドゴルフ大会」や「見学研修会」等を実施しました。

（室内ペタンク大会風景）

（助成額二五万円）

生涯学習事業助成

生涯学習団体に対して、五件、総額五〇万円の助成を行いました。

「南大江小学校生涯学習ルーム」

南大江小学校生涯学習ルームでは、地域住民の交流を深めるとともに、学習意欲を高めるため、「大人の習字教室」や「フラワーアレンジメント講座」を開催しました。

（助成額一〇万円）

（大人の習字教室風景）

地域文化事業助成

中央区内の地域文化の振興に寄与する事業を行う団体に対して、二五件、総額三一八万円の助成を行いました。

「いまも息づく空堀の歴史・文化『ホンモノ体験と伝承』」

（空堀かるた大会風景）

空堀まちなみ井戸端会では、実際の体験・WEBによる体験を活用し、空堀の魅力を次の世代に継承していくための活動として、「空堀まちなみ寄席」、「まち歩き」、「空

堀かるた大会」等を開催するとともに、「空堀かわらばん」の発行等魅力発信の活動を行いました。

（助成額一五万円）

「中央区民まつり事業」

（開会式風景）

中央区民まつり実行委員会では、十月十六日（日）に、子どもから大人まで誰もが気軽に参加し楽しめる、区民の創意・工夫を凝らした「中央区民まつり」を開催しました。

本年は、三年ぶりに難波宮跡での開催となり、ステージ催物九プログラム、コーナー催物三六コーナーを実施し、参加者は延べ三万五千人に上りました。（助成額一五万円）

「あったかまち祭り」

あったかまち祭り実行委員会では、都心の憩いのスポットであり、災害時の一時避難場所でもある北大江公園において、都心生活の魅力の向上や自主防災活動の推進に向けた参加体験型の手づくりイベント「あったかまち祭り」を開催し、工作・クラフト体験やマシュマロ食料づくり体験、避難体験、防災クイズ等を実施しました。

（助成額一五万円）

地域まちづくり事業助成

中央区内の地域まちづくりの振興に寄与する事業を行う団体に対して、一三件、総額一六五万円の助成を行いました。

「中大江校下桜まつりお茶会」

中大江校下社会福祉協議会では、古典伝統芸能「能」や「茶道」等を通して地域の魅力を発信し、地域の特性を生かしたまちづくりを進めるため、中大江公園において、「桜まつりお茶会」を開催し、桜の花の下、「能」や「茶道」の立礼の作法等の鑑賞や、和菓子と抹茶の提供を行いました。（助成額一五万円）

「玉造いきいき交流事業」

玉造地域活動協議会では、地域住民の健康増進と世代間の交流を深め、新旧住民間のコミュニティづくりの一助となることを目的に、「たまつくり健康ハイキング」を開催し、奈良今井町の街並み見学の後、馬見丘陵公園での健康ウォーキングを実施しました。

（助成額一〇万円）

大阪の刀工

森口 隆次
(元 大阪市立博物館長)

中央区鎗屋町一丁目に月山貞一旧居跡の大阪市顕彰碑があり「幕末から明治にかけての大坂新刀の名工。明治三十九年帝室技芸員に任ぜられ、一門は現在なお各地で栄えている」と記されている。

月山というのは山形県の中央部にある、羽黒山・湯殿山と並ぶ出羽三山の最高峰で、古くから修験道の聖地として知られ、現在に至るまで多くの人々の信仰を集めている。

中世の出羽三山は僧坊合わせて七千余坊あり、武力・経済力ともに日本の歴史を左右するほどの勢力を持っていたが、その背景になっていたのが月山東麓にいた月山刀工群である。ここで作られた刀剣は月山物と呼ばれ、綾杉肌(あやすぎはだ)という独特の鍛え肌を見せ、鎌倉時代からその名が知られている。

重要美術品　太刀　銘　月山

月山銘の作品では一番古い南北朝時代ものだが、かなり完成されている作風を示す。

日本刀というのは柔軟な芯鉄を強靭な刃鉄で包む二重構造で、それぞれ何度も折り返して鍛え、その鍛え目が研ぎ上がった刀の表面に鍛え肌としてあらわれ、それぞれ板目肌・柾(まさ)目肌・杢(もく)目肌などと呼ばれ、刀剣鑑識の目安となるものであるが、月山派のみは波をうったような独得の肌目で綾杉肌と呼ばれ、この一門相伝とされている。

地鉄の鍛え肌

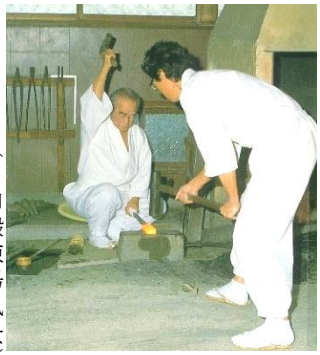
柾目肌　板目肌　杢目肌　綾杉肌

月山派は室町末期まで三山修験の形成発展とともに栄えたが、江戸期に入ると急速に衰えてしまう。これを復興したのが江戸末期の月山貞吉で、現在の山形県河北町から江戸を経て、大坂鎗屋町へ移住、先祖以来の綾杉鍛を再興するとともに、明治から現代に至る日本刀の一大流派というべき大坂月山派の基を開いている。

月山貞吉は子供に恵まれず、天保十四年に近江犬上郡から養子をもらいうけた。これが初代貞一である。初代貞一は十代ころから鍛刀にも刀身彫刻にも優れた技術を見せ、現代でも多くの愛刀家に所蔵されているが、四十一才で廃刀令の憂き目に出会った。しかし多くの鍛冶が転業して行くなかで鍛刀一筋に生き、明治三十九年には遂に現在の人間国宝(重要無形文化財)に相当する帝室技芸員に任命されるに至っている。

貞一の子に月山貞勝がいて大正から昭和初期にかけての日本刀刀工を代表し、その三男が後の人間国宝二代月山貞一で、その後月山家は現在の月山貞利(奈良県無形文化財)、その子の貞伸と続いている。

月山家は二代貞一の晩年近く、奈良の三輪山麓、山の辺の道のほとりに鍛錬場を移しているが、日本刀で一つの流派が月山家という一つの家系で守り伝えられているのは他に例がない。また家系の綾杉だけでなく、備前伝・相州伝などいくつもの鍛法を巧みにこなし、注文主の好みにも応じているのも、いかにも大坂新刀の刀工らしさを伝える大阪の誇りである。



(月山鍛錬場風景)